

48 明治7年1月2日 菊池長閑宛

第一号 一月二日認む (長閑注記)

御家族御機嫌罷御迎春被遊奉珍重候私無事越年仕候間憚なから御高枕被下度奉願上候此度俸禄奉還一件ニ付兼而御覚悟とハ申なから種々御配心可被遊奉恐察候併実ニ寛仁之御下令にて感泣仕居候士族之商法不果は前鑑明々にて農業を営ニ不如耕地ニ於てハ奥州諸道之他県とに優る事数等ニ御座候得ハ我々共ハ仕合者と不思候てハ不相成ト存居候此上ハ県官不平ひら信切まこと之所分まわ而已希望ニ候本宿ニハ此頃数回面会致当月休業中ニ横浜エ同行可致様約束抔致置候同人も矢張八日迄休暇之由ニ候宜敷申上呉候様申居候那珂先生も尊書御恵投之御礼申上呉候様頼ニ御座候書生ハ能々世間と異候者と見得人々之忙敷歳終年始ニハ都而平時閑暇ニ御座候頓首謹言

御尊父様

武夫拜

閣下

(長閑注記)

「^(朱筆)二月十二日達返事同廿日郵便へ出し」